

# 京都

明治時代、木津川市・相楽地区などの南山城地域では、木綿織りが盛んに行われ、「相楽木綿」として京都や大阪、奈良などにも流通していた。相楽木綿の生産は昭和10年代に廃れるが、同市在住の女性らが5年前、「相楽木綿の会」を結成、約70年ぶりに幻の木綿織物を復活させた。

私のしごと館（精華町、木津川市）内にある「相楽木綿伝承館」では、21日から会員

会の結成は、府立山城郷土資料館（木津川市）で平成16年に開かれた「相楽木綿」展がきっかけ。当時、福岡さんは大学で機織りを研究しており、翌年同館の友の会サークルとして、会が発足した。メンバーは当初2人だけだったが、現在は男性を含めて12人。

福岡さんは「相楽木綿は思った以上に奥が深い。手織りの良さがあり、日本のアイデ

## 2010 知事選の町

④

がつくった相楽木綿の展示会が始まった。藍染めの紺地に縞模様や紵の模様が施され、美しい色合いを醸し出している。

「私たちの活動がサークル活動で終わるのはもったいないと思っています。もっと仲間を増やして、できれば相楽木綿が地域の特産品となるようにしていきたい」と代表をつとめる福岡佐江子さん（53）。

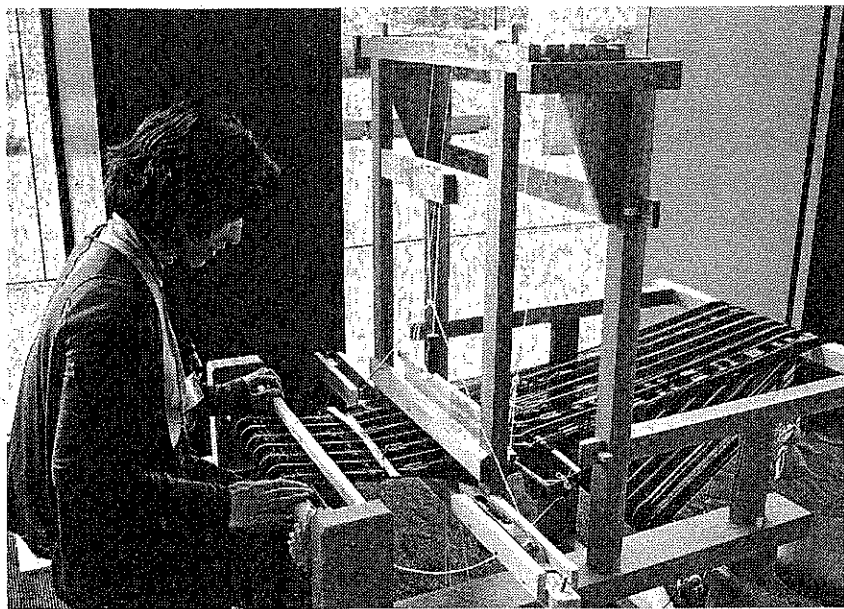
府は平成19年度から、地域住民の取り組みを支援する地域再生プロジェクト支援事業をスタートさせた。福岡さんらのグループも同支援事業の交付金を受けて計10台の機

織り機を整備。本格的な相楽木綿織りに取り組んでいる。同支援事業は21年度までの3年間で計1169件、約6億3400万円の支援を行った。支援を受けた団体の中に

は、その後、交付金に頼らずに活動を続けるところも多いという。

府はこのほかにもNPOを支援する事業をはじめ、地域の公共的活動や政策形成を主

## 地域再生 行政と住民の連携が必要



復活した相楽木綿織り。地域活性化につなげたいという  
—相楽木綿伝承館

導する人材「地域公共人材」を育成する事業、過疎化・高齢化に対処するための里力再生事業などにも取り組んでいる。地域公共人材の育成では、京都の大学や財界などが設立した地域公共人材開発機構（京都市伏見区）と連携。今年初めて本格的に行った人材育成プログラムの受講生募集には、定員22人に対し123人の応募があり、関心の高さをうかがわれた。

同機構のスタッフで、学生時代に地域連携に取り組むNPO法人を立ち上げた経歴を持つ同志社大学政策学部講師の杉岡秀紀さん（30）は「行政、企業、NPO、市民が手を取り合って協働することが、新たな社会的連帯を生み、豊かで活力ある社会を創造することにつながる。その『新しい公共』を担うのが地域公共人材。府北部では雇用の問題も深刻だが、新しい人材を育て、地域で活躍してもらうことで、北部や南部の振興につなげていきたい」としている。